

工事中の防火管理

東京消防庁

なくそう！工事現場からの火災

都内のいたるところでビルの新築工事あるいは、増・改築、修繕、模様替え等の工事が行われていますが、これらの工事に関連して発生した火災は、東京消防庁管内で毎年約 100～200 件発生しています。

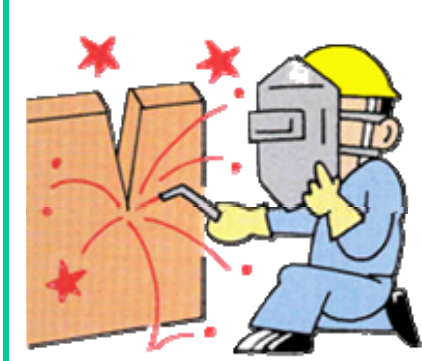


1 主な出火原因

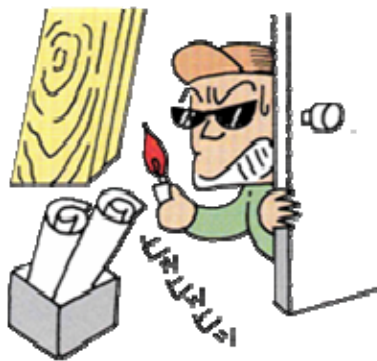
工事現場では、溶接や溶断作業による火花の飛散又は作業員等の喫煙の不始末、更には、夜間施錠されていない工事現場に放火されるなどが原因となって火災が発生しています。

主な出火原因ベスト3

1. 溶接・溶断作業関係



2. 放火・放火の疑い



3. たばこ

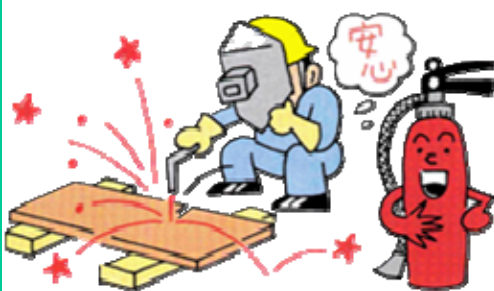


2 工事中の防火管理業務

1 出火防止

溶接・溶断時

周囲を不燃性のシート等で遮へい、可燃物の除去及び消火器等の消火準備



可燃性物品や危険物等のそばでの火気使用の禁止



溶接等の作業場周辺の点検や作業中の監視



喫煙管理

喫煙時の注意事項を守らせる。



放火防止

工事資器材等の整理整頓と工事現場の定期的な巡回



夜間等の立入り禁止と出入り口の施錠、出入者のチェック



2 危険物品等の管理

塗料、シンナー等の危険物品等を多量に使用することがあるため、危険物品等は定められた不燃性の保管庫等に収納、施錠してその管理を徹底する。なお、現場には必要最小限の量を持ち込むようにする。



3 延焼拡大防止

避難通路となるところに資材等を放置しない。



防火戸や防火シャッターの開鎖障害となる場所に物品を置かない。

